

# 沼津市公共空間再編整備計画 冊子デザイン（案）



# 目次 | CONTENTS

## 第1章 はじめに

- P000 ① -1 背景
- P000 ① -2 目的
- P000 ① -3 対象範囲
- P000 ① -4 中心市街地まちづくり戦略策定以降の取組
- P000 ① -5 戰略「ヒト中心の公共空間の創出」の実現に向けて

## 第4章 公共空間の再編計画

- P000 ④ -1 公共空間全体再編方針
- P000 ④ -2 駅前広場の再編
- P000 ④ -3 駅前街路の再編
- P000 ④ -4 地区交通体系の再編

## 第2章 まちの現況分析

- P000 ② -1 プローブパーソン調査
- P000 ② -2 空間特性分析
- P000 ② -3 現況分析(課題)のまとめと空間再編のポイント

## 第5章 今後の取組の進め方

## 第3章 まちづくりシナリオ

- P000 ③ -1 まちづくりのシナリオとは
- P000 ③ -2 まちづくりシナリオと将来のヒトの動きの予測
- P000 ③ -3 中期実現に向けたまちづくりシナリオ(概要)
- P000 ③ -4 中期実現に向けたまちづくりシナリオ(PHASE-1)
- P000 ③ -5 中期実現に向けたまちづくりシナリオ(PHASE-2)
- P000 ③ -6 中期実現に向けたまちづくりシナリオ(PHASE-3)

## 1-1 背景

本市の中心市街地である沼津駅周辺においては、鉄道高架事業を始めとする沼津駅周辺総合整備事業が今後本格展開を迎えます。このため、これらの事業の進捗と併せて取り組むべきまちづくりの施策の方向性を示した「沼津市中心市街地まちづくり戦略」を令和2年3月に策定・公表し、沼津駅周辺を車中心からヒト中心の空間に再編し、ヒトが居心地良く過ごし、快適に回遊できる魅力的なまちづくりを行っていくことを示しました。

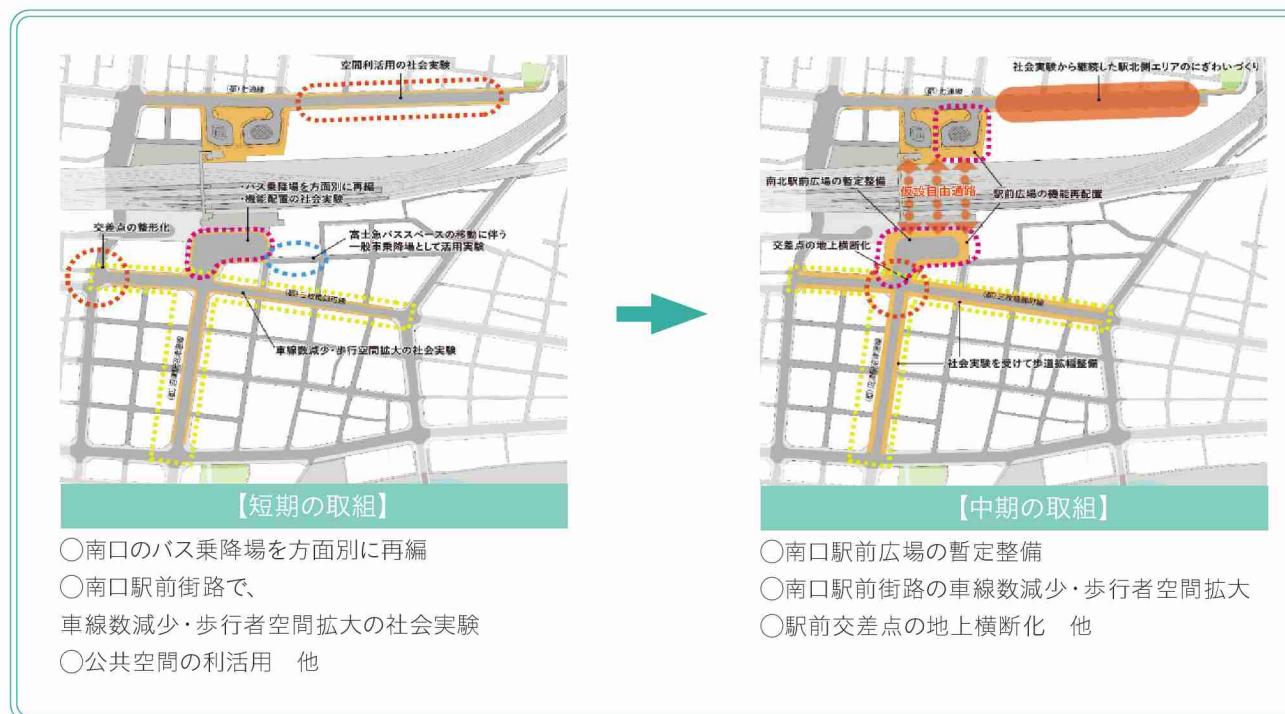
沼津駅周辺総合整備事業は完了までに長期間を要し、その効果は短期・中期・長期と段階的に表れることから、ヒト中心の空間創出に向けた都市空間や交通体系の見

直しについても、その方向性や目指す姿を市民・民間事業者、行政とで共有しながら、段階的かつ着実に推進していく必要があります。

時代やまちづくりの潮流としても、人口減少社会を受け、都市機能のコンパクト化を始め、車中心からヒト中心のまちづくりへの転換として、まちなかウォーカブル施策や道路空間の自由な利用を促進する制度等が創出されるとともに、新型コロナウイルス感染症を契機とした人々の生活や行動の変化、持続可能な開発目標(SDGs)、カーボンニュートラルへの対応など、環境との共生も意識したまちづくりが求められています。また、ヒト中心のスマートシティ

や自動運転等の技術革新など、将来における社会システムの変化なども見据ながら、本市にふさわしいまちづくりを進めていく必要があります。

本計画は、これらの背景を踏まえつつ、まずは中心市街地まちづくり戦略で示された「中期(5~15年)」のまちの姿の実現に向けて、公共空間の再編として取り組むべき事項や施策の方向性、進め方等を定め、これに基づくまちづくりの取組を加速化させることで、まちなかに変化やヒトの新たな動きを創り出し、まちの活性化につなげていくものです。



## ①-2 目的

### ヒト中心の都市空間の実現によるまちの活性化

沼津駅周辺を車中心からヒト中心の空間に再編し、ヒトが居心地よく過ごすことのできる空間をまちなかに創出することで、生活の質・住みやすさの向上によるまちなか居住の促進を図るとともに、官民連携により拡大した歩行者空間等の利活用を推進することで、まちのにぎわいや経済活動の活性化を目指します。

### 持続可能で環境と共生したまちなかの実現

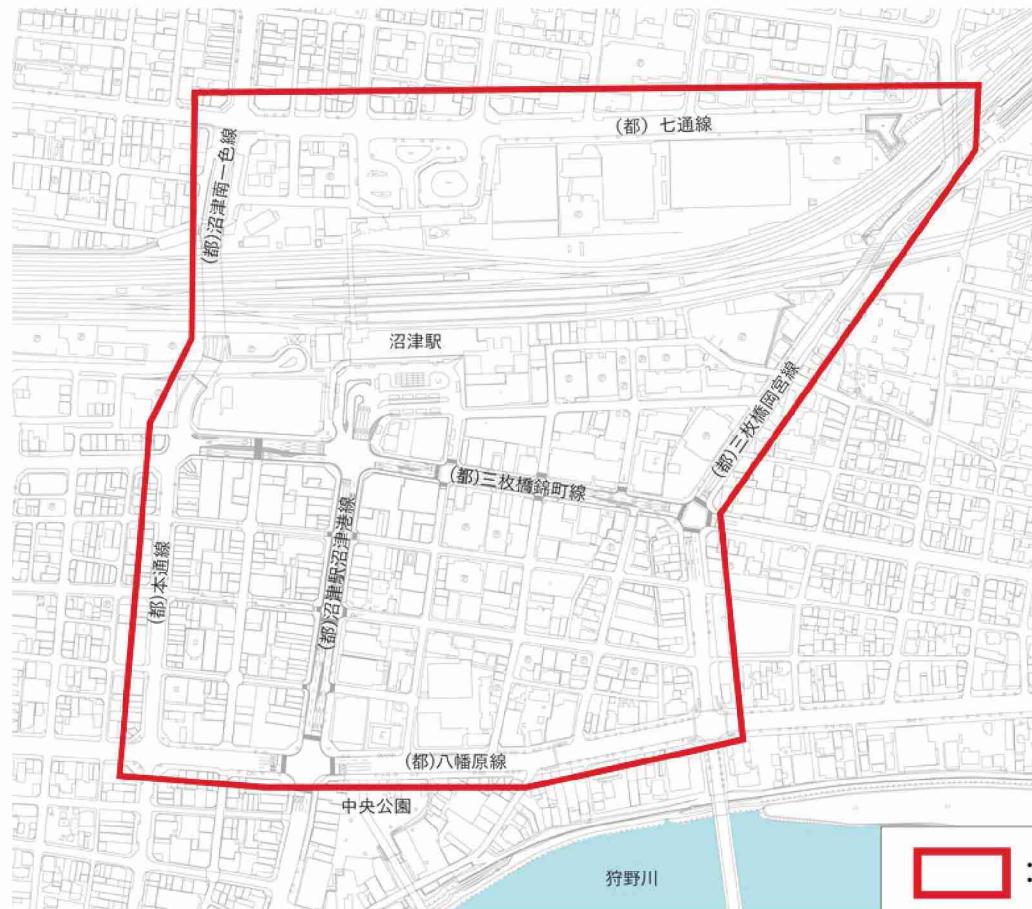
潤いと安らぎを与える緑化空間づくりなど、地球温暖化やヒートアイランドへの対応を意識した再編整備を行うとともに、脱炭素型まちづくりとして公共交通による移動を中心とした、ヒト中心で快適に歩いて暮らせる空間への転換を図ることで、コンパクトで持続可能な、環境に配慮したまちなかを実現します。

### 社会情勢の変化に対応した段階的なまちづくりの推進

本計画では、中期における公共空間の再編プロセスを明示し、段階的かつ着実な展開を図っていくための基本的な考え方を示しています。本計画の考え方をもとに、社会情勢の変化にも本市にふさわしい形を検討する中で柔軟に対応して、具体的な事業内容を検討し、社会実験等による検証も重ねながらまちづくりを進めて行きます。

## ①-3 対象範囲

公共空間再編整備計画の対象範囲は、中心市街地まちづくり戦略で定めた「駅まち環状」内とします。



□：対象範囲

## 【まちの現況分析のねらい】

・本章では、中心市街地における歩行者の回遊特性の把握を目的とした「プローブパーソン調査」や、空間や動線ネットワークのつながり等の特性の把握を目的とした「空間特性分析」(スペースシンタックス)という手法を通じて、現況の中心市街地における課題を整理します。

### ○プローブパーソン調査とは

- ▷モニターを募り、沼津駅周辺の地域内を移動する日の移動経路や移動目的、移動手段をスマートフォンの調査用アプリを活用して把握し、歩行者の回遊行動を明らかにする調査手法です。
- ▷現況の歩行者回遊モデルを分析することで、歩行者交通量の増加や回遊性に与える影響をより詳細に知ることが可能です。

【調査期間】2020年9月28日(月)～10月18日(日)

【調査対象】駅まち環状エリア内(約30ha)を徒步で移動する人



図. 調査対象範囲



図. フライヤー

- ・これらを基に、ヒト中心の空間へ転換するために必要な空間再編のポイントを整理し、公共交通空間再編整備計画に反映することを目的とします。

### (参考)他都市での活用事例

#### ■千葉市の中心市街地の空洞化状況を把握する目的

駅前の大規模商業施設の撤退や、千葉駅周辺の再開発等により駅周辺の施設に来訪が集中し、中心市街地の空洞化が問題視されていました。そこで、中心市街地エリア内の経路や目的地などの特性や地区が関わる問題・課題内容を把握する目的でプローブパーソン調査が活用されました。



図. 来訪手段別目的構成

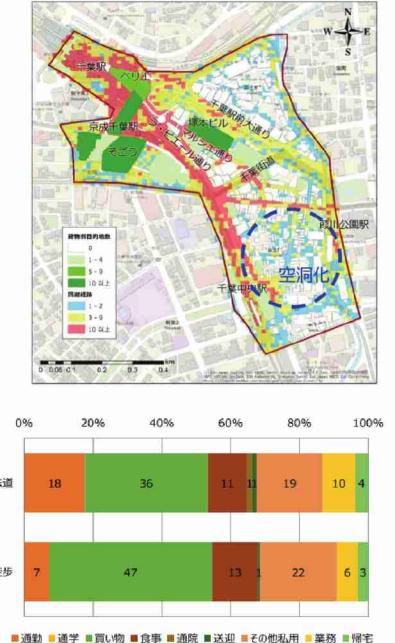


図. 駅からの距離帯別の目的地数

(出典:東京都市圏交通計画協議会「駅まち回遊まちづくりの分析の手引き」)

## ○空間特性分析(スペースシンタックス)とは

▷人の行動は、空間のつながり方(配置関係・接続関係)に大きく影響を受けると言われています。

スペースシンタックスは、そのつながり方を客観的に可視化・指標化する分析手法です。

▷スペースシンタックスは、空間相互の接続関係(動線、視線)を、位相幾何学的なグラフで表し、各空間の特性を定量化することに特徴があります。グラフ理論の近接中心性や媒介中心性の考え方を援用した手法を中心に、様々な都市解析手法を組み合わせて分析することにより、場所の特性をより良く理解しようとするアプローチです。

▷具体的には、街路の周囲とのつながりの良さや途中経路としての通りかかりやすさ、駅前広場等のオープンスペースの視認性などを分析します。



図. つながりの良さの指標化イメージ

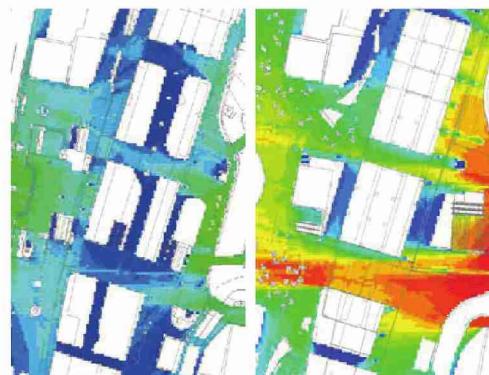


図. 視認性の指標化イメージ

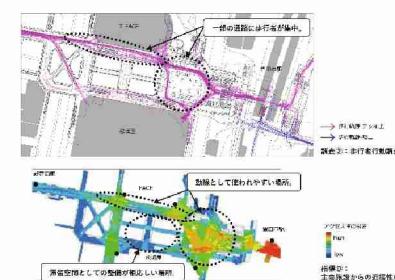
### (参考) 他都市での活用事例



■ ロンドンの都市再生(London, UK)  
街の中に位置するトラファルガー広場の再生や、歩道橋ミレニアムブリッジのデザイン、金融街シティ周辺エリアの多くの再開発計画、オリンピックシティのマスター・プランからレガシー再整備など、様々な都市プロジェクトに活用され、成果を得ています。



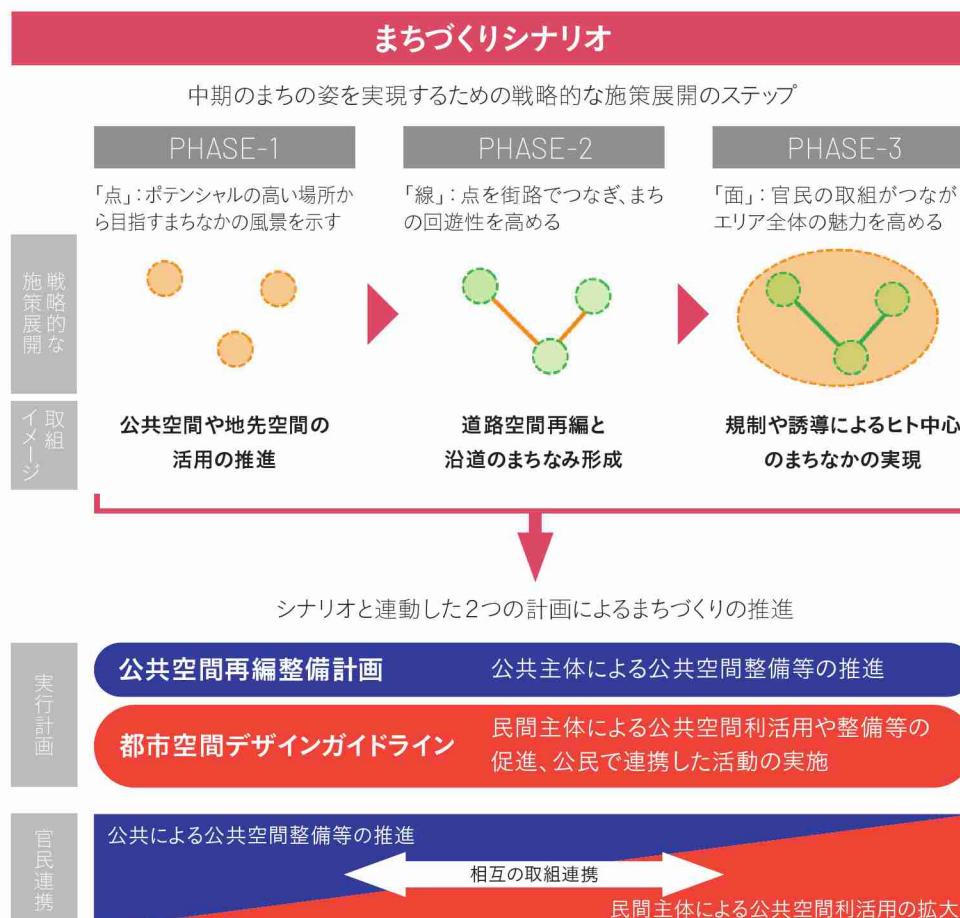
■ 姫路駅前の公共空間整備(姫路市)  
姫路城を眼前に臨む姫路駅。その駅前広場から大手前通りへとつながる公共空間の再整備における、デザイン案の評価・効果予測に用いられました。また、この整備効果を中心市街地全体に波及させることを目指した検討・議論にも空間特性分析が用いされました。



■ 豊田市駅周辺の空間再編(豊田市)  
自動車中心から「人」中心の駅前を目指したプロジェクト。公共空間再整備デザインの検討に先立って現況調査を行い、空間活用の動きとも連携しつつ、空間特性分析が行われました。この成果は「デザインブック」としてまとめられ、市民に公開されました。

### ③-1 まちづくりシナリオとは

- ・中心市街地まちづくり戦略」で示された中期のまちの姿の実現に向けて、どこから、どのような考え方で、沼津の中心市街地が変化していくと、まちの変化への期待感が沸き、民間との連携が進んでいくのか、その「実践する手順、施策、狙う効果」を「まちづくりシナリオ」として描き、官民で共有しながら一体となった取組を進めて行くことを目指します。
- ・「まちづくりシナリオ」の展開に当たっては、まちなかの公共空間や資源をまちにひらくことで生まれる風景を、日常へつなげ、ヒト中心のまちなかの姿を創り出していくという“OPEN NUMAZU(オープンヌマツ)”の考えのもと、取組を進めていきます。



### (参考) 都市空間デザインガイドラインとは

- ・魅力あるまちの形成には、地域ブランドの向上に資する、質の高い空間、洗練されたまちなみ、公共空間と沿道建築物が一体となった賑わい空間の創出が重要です。そのため、「来たくなる、過ごしたくなる、滞在したくなる」まちなかの実現に向けて、官民連携により取組を進めいくことが必要です。
- ・都市空間デザインガイドラインは、行政はもとより、民間事業者や住民が主体的に魅力的な空間づくりを行えるよう、都市空間の望ましい姿やその実現に向けたアイデア等をとりまとめ、指針として示すものです。
- ・まちなみの現状分析を踏まえて、ヒト中心の都市空間を構成するために必要な要素として、Activity、Street、Managementの3つを抽出し、各要素ごとの取組を循環・推進していくことでのヒト中心の都市空間の実現を目指しています。

### ヒト中心の都市空間の実現に必要な3つの要素

- ①街路空間を活かした多様なアクティビティ：  
**Activity**
- ②中心市街地にふさわしい質の高いまちなみ：  
**Street**
- ③官民連携により段階的に成長する仕組み：  
**Management**



M-1. 民間事業者等による積極的な公共空間の利活用  
M-3. 民間敷地と公共空間の一体的更新



S-2. 環境に優しく、自然を感じる快適な空間  
S-3. 沼津らしさを感じる品格のあるまちなみデザイン

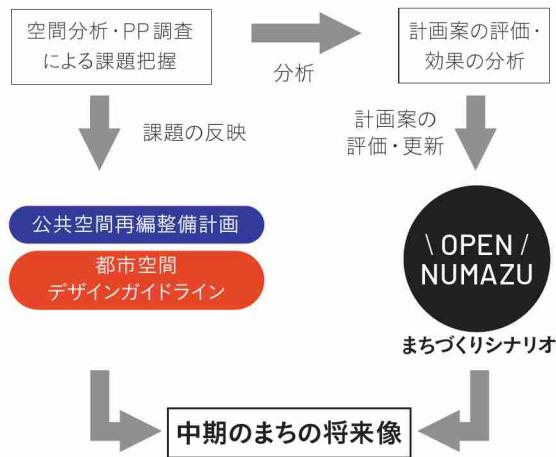


### ③-2 将来のヒトの動きの予測

まちの現況分析を踏まえ、まちづくりシナリオでは以下のステップで施策を展開し、ステップごとに公共空間の再編と民間事業者によるまちづくりとの連動を目指します。また、各ステップにおいて、公共空間再編施策の内容が及ぼす将来のヒトの動きを回遊シミュレーションで確認し、ヒトの流れを生み出し、ヒト中心のまちなかの実現を確実に進めることのできるアクションを実行していきます。

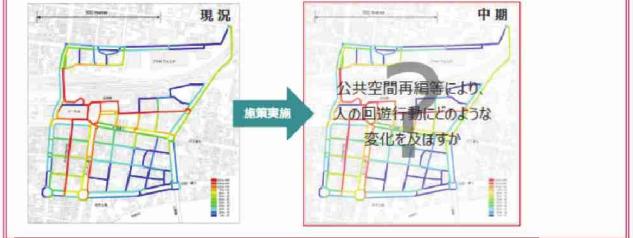
### ③-3 中期実現に向けたまちづくりシナリオ(概要) 【5-15年での実現ステップ】

	\ OPEN / 1.0	\ OPEN / 2.0	\ OPEN / 3.0	
イメージ				
施策概要・狙い	<p>1. まちなかの貴重なオープンスペースである中央公園での利活用の取組に加え、空間のポテンシャルが最も高い(都)三枚橋錦町線西側区間において車道の一部を歩行者空間化する社会実験を実施する。</p> <p>2. <u>公共空間の利活用に対する機運やまちの変化に対する市民の期待を醸成する。</u></p>	<p>1. 社会実験を踏まえて、(都)三枚橋錦町線西側区間ににおける定期的な地先空間活用を図り、<u>まちなかに新たな滞留・にぎわいスポットを生み出す。</u></p> <p>2. 仲見世商店街周辺で地先空間活用に係る新たな取組を試行し、<u>「(都)三枚橋錦町線西側区間・仲見世商店街・中央公園・旧国1南エリア」へ歩行者の回遊を生み出す。</u></p>	<p>1. 南口駅前広場の暫定整備に向けて、一般車乗降場の東西分散化・周辺交通への影響に関する社会実験を実施する。</p> <p>2. (都)三枚橋錦町線西側区間の再編整備、整備後の歩行者空間の利活用を推進し、駅からの動線及び仲見世商店街・中央公園を含む南北のつながりを強化する。</p>	<p>1. 沼津駅南口交差点の地上横断化、駅前街路の再編整備により、<u>歩きやすいまちなかを実現し、歩行者回遊範囲の面的拡大を図る。</u></p> <p>2. (都)沼津駅沼津港線等の空間再配分に向けて、車線数の減少・沼津駅南口交差点の地上横断化に関する社会実験を実施する。</p>



#### ○回遊シミュレーションとは

令和2年度に実施した歩行者回遊行動調査(プローブパーソン調査)結果や駅まち環状エリアの特性(道路状況、施設立地等)を踏まえ、人の回遊行動を予測するシミュレーションモデルを構築し、中期おいて駅前広場や駅前街路の再編等を行った際の回遊行動に対する効果や影響を分析するもの



## 4-2 駅前広場の再編



## 駅前広場全体のデザイン

## 洗練されたベースデザイン

全体のデザインとして、主役となる「駅前広場を利用し集う人々」の背景になるように、低彩度の落ち着いたデザインとし、ストリートファニチャー等の道路付属物についてもシンプルで飽きのこない洗練されたデザインを目指す。

## 実験広場の空間デザイン方針

## まちの玄関口・待ち合わせ・人に優しい案内・誘導

駅利用者や来街者を迎えるおもてなし空間として、開放感のある沼津のまちの雰囲気に沿ったものとし、待ち合わせや公共交通・観光案内など、分かりやすさや人に優しい誘導を意識した空間デザインを目指す。



## 利活用広場の空間デザイン方針

### 日常利用・イベント出店・利活用による賑わい

- ・バス停留所と、西側商業施設地先空間の2つから、どちらも使いやすい空間構成とする。
- ・各出入口や停留所などへの人の動線は確保した上で、まとった広場空間を確保し、休憩などの日常利用から店舗出店、市民の利活用まで多様な活動に対応できる空間を目指す。



## 実験広場の空間デザイン方針

### 芝生広場・拠点施設・イベント出店

- ・駅前で自由にくつろげる開放的な緑地空間とし、ここを起点に中央公園や狩野川まで続くまちなかの緑の軸を生み出す。
- ・まちなかでの新たな活動を生み出す場として、活動を支援する拠点施設と芝生広場を組み合わせ、多くの人が訪れやすい空間を目指す。

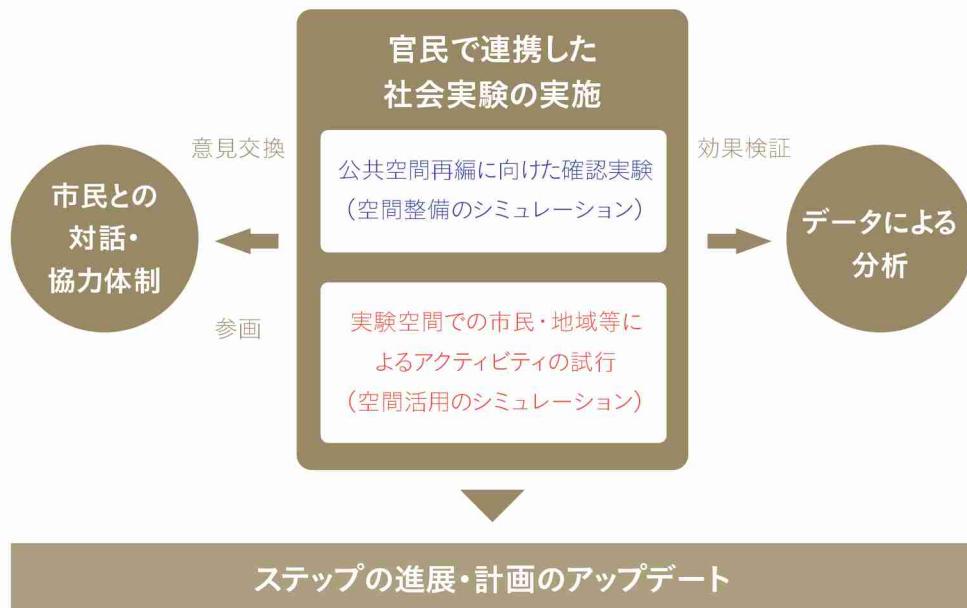
公共空間の再編は、生み出した空間を住む人・訪れる人が利活用することで、まちの活性化につなげていくための一手段であり、常に当該空間を「誰が活用するのか」を意識しながら、整備を進めて行く必要があります。

このため、以下の点に留意し、社会実験を通じて再編の取組を推進していきます。

### ①社会実験を通じた「効果検証サイクル」

- ・まちづくりシナリオに沿って再編を進めて行くに際には、市民とのコミュニケーションによりその内容を周知し、協力関係を築くことはもとより、計画に基づく具体的な整備に向けて社会実験を行い、得られたデータを可視化し、広くその効果等を共有していきます。
- ・まちづくりシナリオの各ステップにおいて、市民との対話・社会実験・効果検証のサイクルを重ねながら、計画や事業内容の見直し・改善を含め、効果的な再編につなげていきます。

#### 効果検証サイクルイメージ



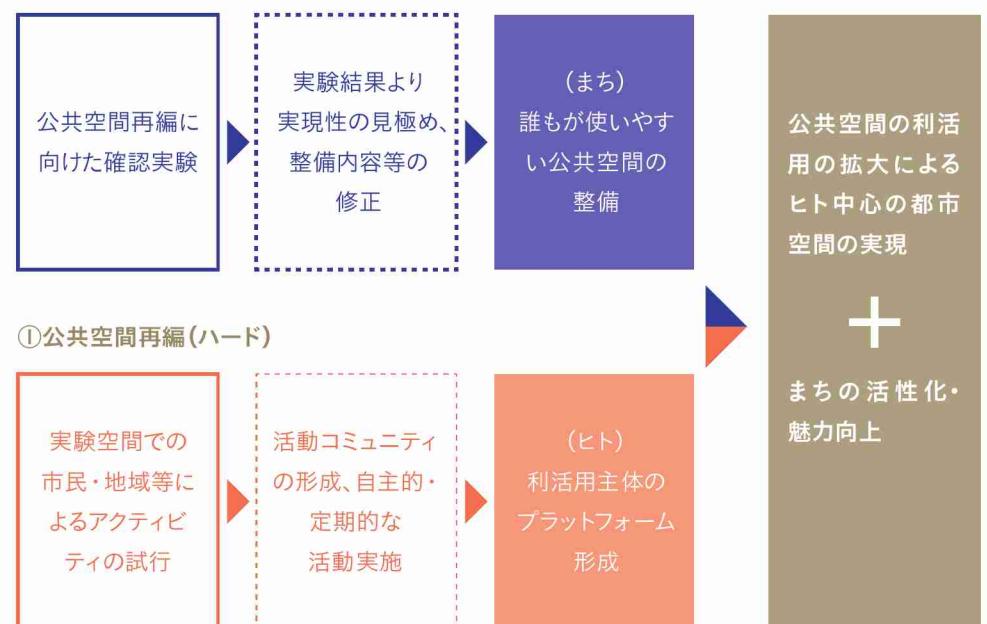
まちづくりシナリオのステップでの一連のアクション

### ②社会実験を通じたまち・ヒトづくり

- ・社会実験には、公共交通空間再編（ハード）を進めるためのシミュレーションと、創出空間の活用（ソフト）に向けたシミュレーションという2つの目的があることから、ステップごとにこの2つの目的を意識して、官民で連携しながら社会実験を行っていきます。
- ・とりわけソフト面を意識して取り組む際には、「都市空間デザインガイドライン」に記載のアイディアや進め方を実践する場として活用することで、まちに関わるきっかけや携わる人を増やしながら、“つくる”整備だけでなく、“つかう”ことでにぎわいが連鎖する中心市街地をステップごとに目指していきます。

#### 社会実験を通じたまち・ヒトづくりのイメージ

##### ①公共交通空間再編（ハード）



### ③誰もが参画・チャレンジできる仕組みづくり

・沼津市では、これまで民間支援まちづくりファンによる活動支援やリノベーションの取組など、公民連携のまちづくりを進め、公園や河川、道路などの公共空間を活用した、民間主体によるにぎわい創出活動を支援してきました。

・今後、駅まち環状内をヒト中心の空間に再編し、まちの活性化につなげていくためには、当該エリア内で生み出される空間を、既に活動を実践している人々の新たな舞台として提供するだけでなく、当該エリア内のプレイヤーを新たに増やし、活動を広げていく必要があります。

・このため、ソフト面を意識した社会実験の実施に向けては、空間を活用したいと思う人が自分のやりたい活動にチャレンジできる「オープン」マインドのもと、誰もが参画できる仕組みづくりを行っていきます。

#### 社会実験を通じたまち・ヒトづくりのイメージ

参画の拡大

##### 1.市民参加の間口を広げる

- ・まちなかデザイン会議等の開催による事例紹介・市民啓発・情報発信
- ・まちづくりの専門家などによる講習会やアドバイス支援

##### 2.参画の機会をつくる

- ・まちづくりシナリオのステップに応じた、社会実験の実施、参加呼びかけ
- ・公共空間に必要なインフラ等に関するヒアリング

##### 3.継続的な活動を支援する

- ・継続的なまちなかでの活動体制強化への伴走支援
- ・占用等の空間活用に必要な行政手続に関する相談・支援

市内でまちづくり活動を行っているプレイヤーや団体同士の交流機会の創出  
都市空間デザインガイドラインを意識した空間づくり活動の支援

活動同士の連携

活動コミュニティの形成、エリアマネジメント団体等の立ち上げへ



# 都市空間デザインガイドライン

## 冊子デザイン（案）



# 目次 | CONTENTS

## 第1章 都市空間デザインガイドラインとは

- P000 ① 背景
- P000 ② 目的
- P000 ③ 位置づけ
- P000 ④ 対象範囲

## 第4章 空間タイプ別デザイン誘導指針

- P000 ① まちなかを構成する6つの空間タイプ
- P000 ② 広場
- P000 ③ シンボルロード(沿道店舗連携型・くつろぎ空間創出型)
- P000 ④ 歩行者専用道路
- P000 ⑤ 生活道路A
- P000 ⑥ 生活道路B
- P000 ⑦ 駅まち環状

## 第2章 目指すべき将来の都市空間

- P000 ① 都市空間に対する現状認識
- P000 ② ヒト中心の都市空間の実現に必要な3つの要素

## 第5章 実現に向けて

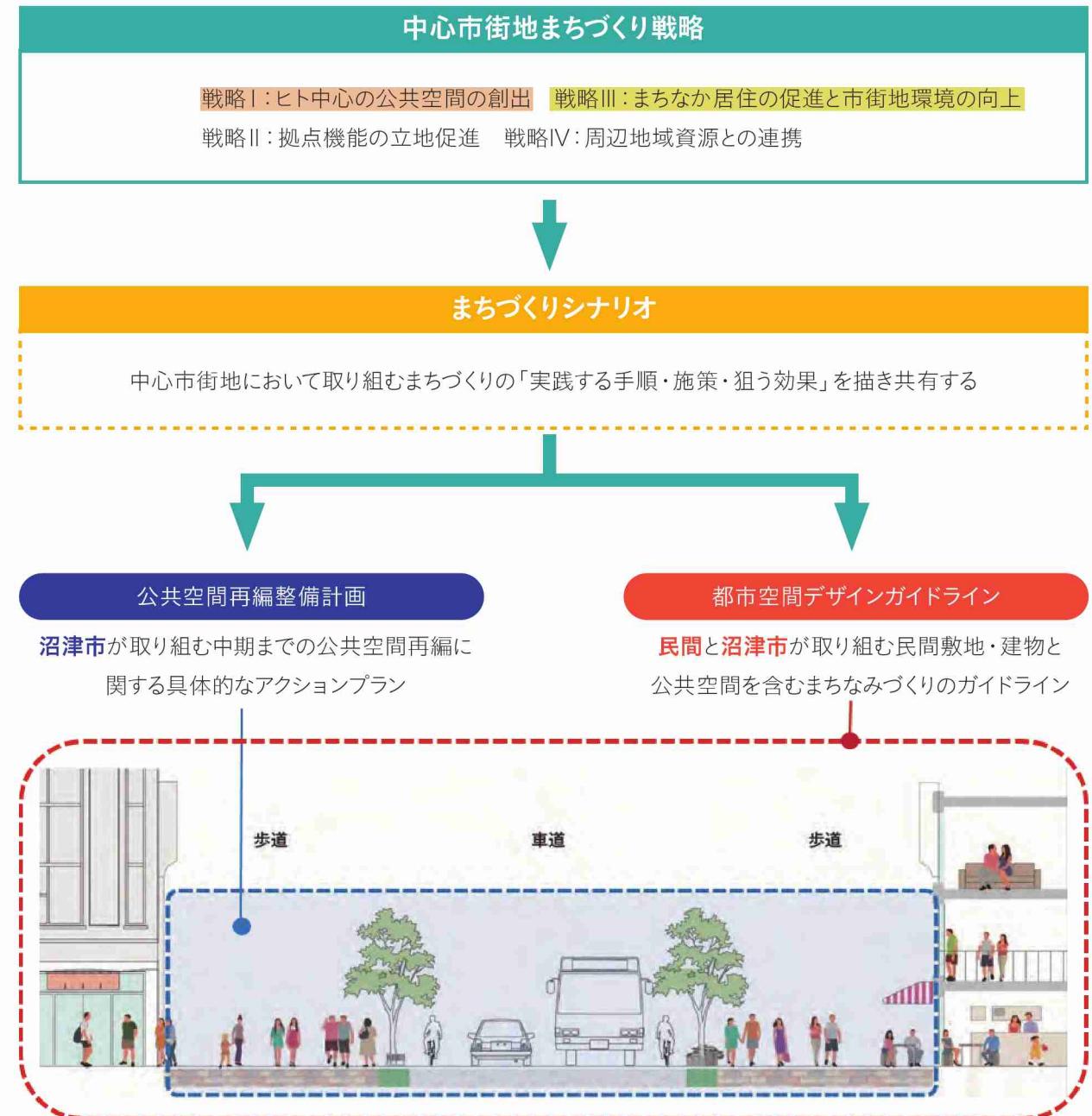
- P000 ① ヒト中心の都市空間の実現に向けたプロセス
- P000 ② デザインガイドラインの使い方
- P000 ③ 空間づくりを支える取組・制度

## 第3章 都市空間形成方針

### ③位置づけ

本ガイドラインは、沼津市中心市街地まちづくり戦略に位置付けた「戦略Ⅰ：ヒト中心の公共空間の創出」及び「戦略Ⅲ：まちなか居住の促進と市街地環境の向上」に基づき、策定するものです。

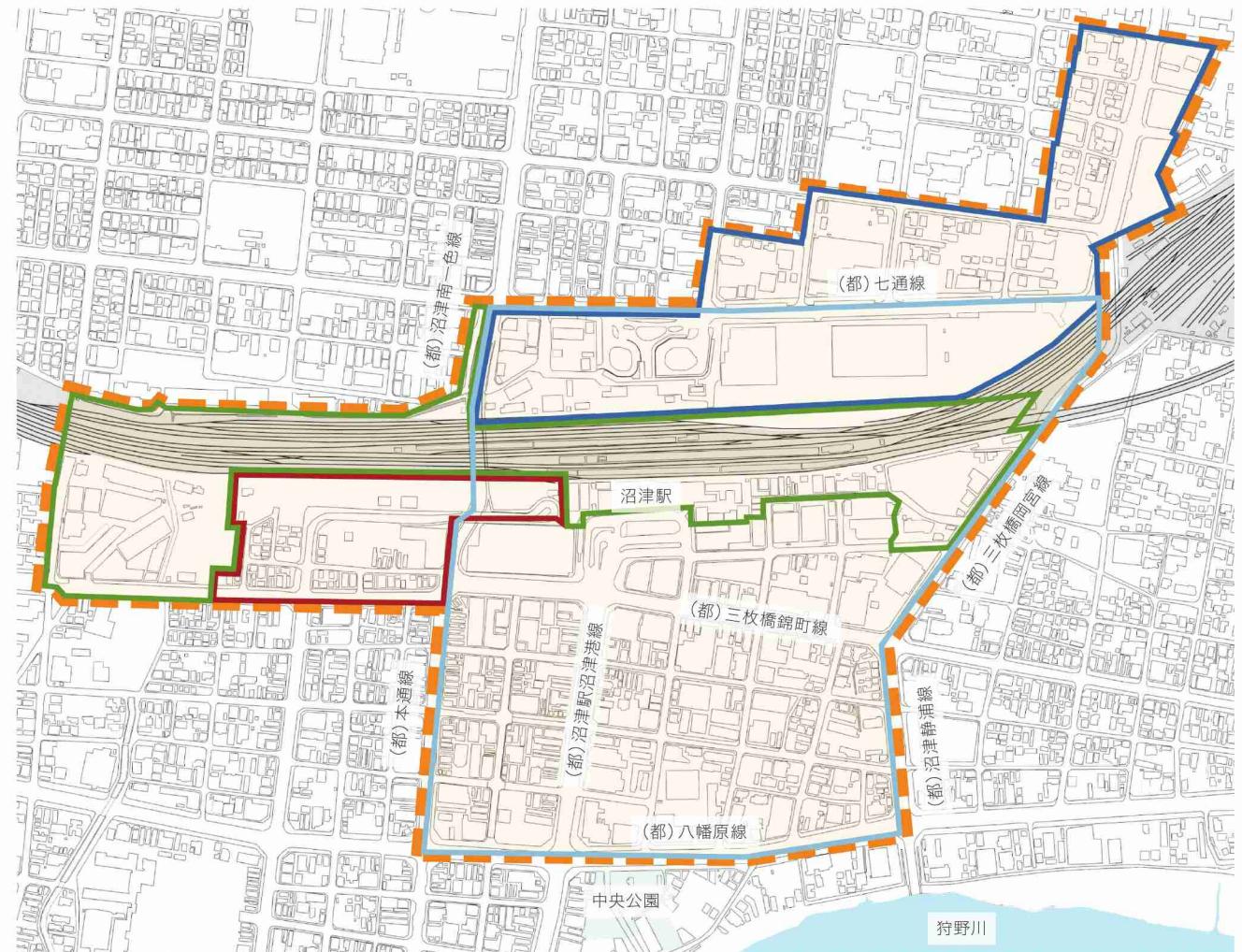
民間と沼津市が取り組む民間敷地・建物と公共空間を含むまちなみづくりの指針となるもので、中期までの公共空間再編に関する具体的なアクションプランとなる「公共空間再編整備計画」と連動して、ヒト中心のまちづくりを推進していきます。



## ④ 対象範囲

ヒト中心の空間を創出していく駅まち環状エリア、及び、沼津駅から約1km以内において、土地区画整理事業が行われ、暮らしや滞在、まち歩き環境の向上が見込まれるエリアを対象とします。

なお、本市では、都市再生特別措置法に基づき、このエリアを居心地が良く歩きたくなる空間づくりを促進する「滞在快適性等向上区域」(通称:まちなかウォーカブル区域)として指定しています。



## ②ヒト中心の都市空間の実現に必要な3つの要素

現在の都市空間に対する市民の現状認識を踏まえ、魅力ある空間づくりを進めるための課題を整理し、ヒト中心の都市空間の実現に必要な3つの要素を示します。

### 1. 個の空間としての課題

- ・民間活動が建物内部で完結することで、にぎわいが効果的に地先空間に滲み出ていません。
- ・十分な地先空間があってもその空間の有効活用が図られておらず、人が滞在したくなる環境となっていません。
- ・人のゆとりある活動機会を創出する、まちに開かれたまとまりのある空間が不足しています。

#### Activity

民地からのにぎわいが公共空間に滲み出る空間活用や立ち止まり、その場所にとどまりたくなるような空間創出等によって、多くの人々を惹きつけ、活動・交流の場ともなる空間を形成する必要があります。



### 3. 民間敷地・公共空間一体としての課題

- ・民間事業者等による積極的な公共空間活用は行われておらず、民間活動の場は民地に限られています。
- ・暫定的な土地利用を目的とした平面駐車場等の低未利用地が散在するなど、民地のポテンシャルを活かしきれていません。
- ・セットバック空間を有効活用できておらず、民間敷地と公共空間の一体感が不足しています。



Activity、Street、Managementの3つの要素を循環しながらまちづくりを進めることで、ヒト中心の都市空間の実現を目指していきます。

#### Management

公共空間の積極的な利活用やセットバック空間の有効活用などにより、民間敷地と公共空間の垣根を超えた活動・整備が行われ、一体感のあるまちなかとする必要があります。

### 2. 通りとしての課題

- ・歩行者の通行が多い街路においても段差等があり、有事の際にも含め誰もが安心して快適に歩くことができる環境にはなっていません。
- ・街路樹や民地側の緑化など、身近に感じられる緑が乏しい状況です。
- ・通りの特性を活かした、統一感・連続性のある風景を生み出せていません。

#### Street

安全でわかりやすい歩行空間や道路・地先での適切な緑量の確保、統一感のあるファサードの実現など、誰もが使いやすく、居心地良く感じられる、デザインの統一が図られた通りとする必要があります。



ヒト中心の都市空間の実現に必要な3つの要素(Activity、Street、Management)を具体化する取組の方向性として、9つの「都市空間形成方針」を設定します。

## ①街路空間を活かした多様なアクティビティ:Activity

### A-1：グランドレベルにおける民地からの滲み出し

建物1階の用途や建物外観の設えの工夫などによって、建物内部のにぎわいを沿道に滲み出します。



前橋市



墨田区

### A-2：地先空間を活用した、小さい滞留空間づくり

店先などの地先空間に佇む場をつくり、沿道ににぎわいの風景を生み出します。



神戸市(サンキタ通り)



大東市(morineki)

### A-3：まちの資産となる使い勝手の良いオープンスペース

使い勝手の良いフレキシブルな空間づくりと併せて、利活用に必要な什器や設備を整えます。



豊田市(新とよパーク)



港区(ののあおやま)

## ②中心市街地にふさわしい質の高いまちなみ:Street

### S-1：歩きやすく、分かりやすい、安心安全な歩行者空間

ユニバーサルデザインや、有事も見据えた照明・サイン等によって、誰もが安心・快適に回遊できる歩行空間とします。



豊島区(グリーン大通り)



神戸市(サンキタ通り)

### S-2：環境にやさしく、自然を感じる快適な空間

身近な緑の確保や環境に配慮した設えによって、自然を感じ、環境負荷低減に貢献するまちなみをつくります。



渋谷区



仙台市(定禅寺通り)

## ③官民連携により段階的に成長する仕組み:Management

### M-1：民間事業者等による積極的な公共空間の利活用

空間活用の新たな制度を使いながら、民間活動の場を公共空間へと広げていきます。



豊島区(グリーン大通り)



静岡市(呉服町通り)

### M-2：にぎわいや安らぎを生み出す、民間敷地の有効活用

民地内の余白の活用や土地の合理的な活用によって、まちに向かってにぎわいや安らぎを生み出します。



広島市



広島市

### M-3：民間敷地と公共空間の一体的更新

官民が連携し、民間敷地と公共空間が一体感のあるまちなみ景観をつくります。



福岡市



姫路市(キャスルガーデン)

## ② 広場

### 空間形成のねらい

多様なアクティビティが可能なまとまったオープンスペースや、人が居心地よく過ごせる滞留施設・緑環境を創出し、周辺の商業施設との連携によって一体的に活用することで、まちなかの目的地のひとつとして、市民や来訪者の滞在・交流が生まれる空間とします。



## アイディアリスト

	空間形成方針	アイディア	取組主体
Activity	A-1 グランドレベルにおける民地からの滲み出し	1階部分は、飲食や物販など、にぎわいが感じられる用途とする。 1階部分は、開口部を大きくとり、内部の様子がわかるよう、ガラス等の透過性のある素材を用いる。	民
	A-2 地先空間を活用した小さい滞留空間づくり	地先空間にイス・テーブル等の什器を設置し、ちょっとした休憩が可能な滞留空間を設ける。 店舗の地先空間を客席の一部として利用し、にぎわいを店舗内外で連続させる。	民
	A-3 まちの資産となる使い勝手の良いオープンスペース	多様な活動に対応できるフレキシブルでまとまりのあるオープンスペースを確保する。 空間を使いこなすための什器やそれを保管するための場所を用意する。 空間の利活用に必要なインフラ（電気・水道・排水等）を整備し、使い勝手の良い空間とする。	公 公 / 民 公 / 民

	空間形成方針	アイディア	取組主体
Management	M-1 民間事業者等による積極的な公共空間の利活用	公共空間を活用し、民間活動を展開する。 歩行者空間にパークレットなどの滞留・休憩施設を設け、人が滞在しやすい環境をつくる。	公 / 民 公 / 民
	M-2 にぎわいや安らぎを生み出す、民間敷地の有効活用	適切に利活用範囲の整理・清掃を行い、まちなみ景観を阻害しないよう配慮する。 敷地を共同化し、土地の合理的な利用を促進する。	公 / 民 民
	M-3 民間敷地と公共空間の一体的更新	まちの回遊を意識した、建物内部の動線やエントランス配置とする。 建物の壁面後退等による空間を広場と一体となったパブリック空間として活用し、にぎわいを演出する。 建物は、広場に対して顔を向け、広場とのつながりを意識した設えとする。	民 民

	空間形成方針	アイディア	取組主体
Street	S-1 歩きやすく、分かりやすい、安心安全な歩行者空間	歩道の段差や切り下げをなくし、車イスやベビーカー等でも移動しやすいように配慮する。 民間敷地内部からの灯りや、街路灯などで公共空間を照らし、夜間や有事でも安心して歩ける空間を確保する。	公 公 / 民
	S-2 環境にやさしく、自然を感じる快適な空間	高木植栽や芝生等によって、緑豊かな歩行・滞在環境をつくる。 屋外で使用する什器等には、木材などの緑と調和し、温かみを感じる材質のものを用いる。 耐水性機能や保水・遮熱機能、騒音・排気等の吸収機能など、環境に配慮した舗装とする。	公 公 / 民 公
	S-3 沼津らしさを感じる品格のあるまちなみデザイン	建物外観は、突出した華美なものは避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。 ショーウィンドウや庇、照明、看板、屋外什器等はエリアでの統一感や連続性に配慮し、トータルで演出する。 案内・誘導や店舗のサイン等は、周辺の景観に配慮した統一感のあるデザインとする。	民 民 公 / 民

公：公共  
民：民間事業者

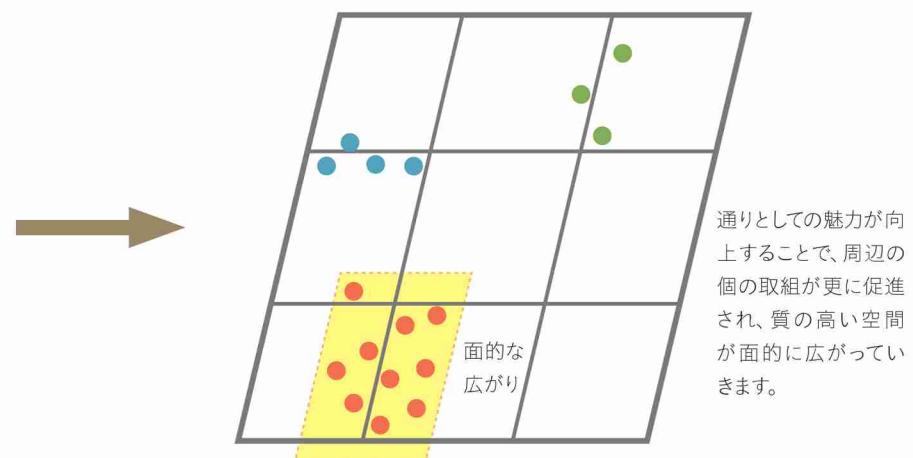
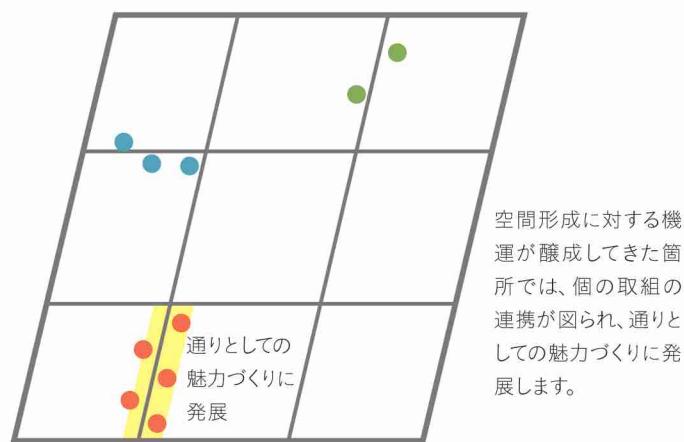
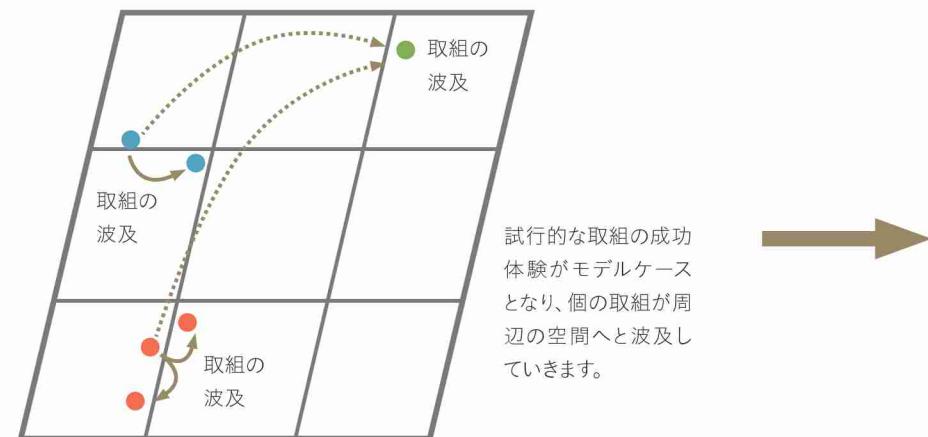
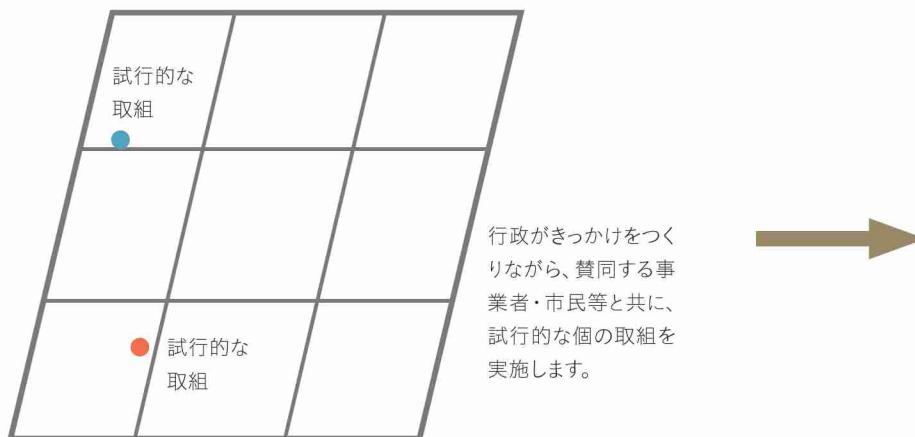
## ①ヒト中心の都市空間の実現に向けたプロセス

まちづくりシナリオ（「公共空間再編整備計画」に掲載。概要是次頁参照）に示す沼津駅周辺の公共空間再編整備と連動したステップによる計画的・戦略的なアプローチと、試行的な取組から実践を積み重ね、段階的に周囲へ波及させていくアプローチの両輪で進めていきます。

前者については、公共空間再編整備に向けた課題、効

果等の把握と併せて空間の利活用を促進するために、目的を持って一定エリアで段階ごとに実施していく社会実験を通じて、まちなかの公共空間や資源がまちに開かれる効果をエリアで示し、社会実験を通じたまちづくりへの参加者の拡大や運営の組織化なども図りながら、ヒト中心の都市空間の実現を目指していきます。

また、後者については、以下に示すように、まずは行政が行動につながるきっかけを作りながら、賛同する事業者・市民等と共に個ができる小さな取組を試行的に、かつ、着実に進め、空間形成に対する機運が醸成された箇所から、通り、エリアへと段階的に取組を発展し、ヒト中心の都市空間の実現を目指します。



## (参考)まちづくりシナリオ

まちづくりシナリオは、「中心市街地まちづくり戦略」で示された中期のまちの姿の実現に向けて、どこから、どのような考え方で沼津の中心市街地が変化していくと、まちの変化への期待感が沸き、民間との連携が進んでいくのか、その「実践する手順、施策、効果」を示したものです。(詳細は「公共空間再編整備計画」参照)

シナリオのステップの進展に当たっては、下記のシナリオイメージの青色部分で示すとおり、公共空間の再編整備と併せて利活用に関するヒトづくりも意識した社会実験を段階に応じて実施しながら、取組を進めています。

→ 生み出す歩行者動線  
→ 副次的に生まれる動線

	PHASE 1-1	PHASE 1-2	PHASE 2-1	PHASE 2-2	PHASE 3-1	PHASE 3-2
シナリオイメージ						
公共空間再編に関する主な取組	○(都)三枚橋錦町線西側区間において、車道の一部を歩行者空間化する <u>社会実験の実施</u>		○南口駅前広場における一般車乗降場の東西分散化・周辺交通に関する <u>社会実験の実施</u> ○(都)三枚橋錦町線西側区間の空間再配分に関する設計・整備	○南口駅前広場の暫定整備に関する設計・整備 ○(都)沼津駅沼津港線・三枚橋錦町線東側区間の空間再配分に関する社会実験の実施	○(都)沼津駅沼津港線・三枚橋錦町線東側区間の空間再配分に関する設計・整備 ○沼津駅南口交差点の地上横断化	
デザインガイドラインに関する取組	○(都)三枚橋錦町線西側区間の <u>社会実験</u> において、商業者による <u>Activity</u> の取組を実験的に実施	○(都)三枚橋錦町線西側区間において、社会実験を契機に商業者と連携して、定期的な地先空間活用へと発展( <u>Activity</u> )	○(都)三枚橋錦町線西側区間において、 <u>Street</u> の取組を実施 ○UR敷地の暫定活用として、商業者等による <u>Activity</u> の取組を実験的に実施	○南口駅前広場において、 <u>Activity</u> 、 <u>Street</u> の取組を段階的に実施(商業者の取組、公共の整備など) ○駅前街路の社会実験において、商業者等による <u>Activity</u> の取組を実験的に実施	○南口駅前広場において、 <u>Activity</u> 、 <u>Street</u> の取組を段階的に実施(拠点施設を核とした市民による空間利活用の推進) ○駅前街路において、商業者等による <u>Activity</u> 、 <u>Street</u> の取組を段階的に実施	○官民連携によるManagementの仕組をエリア内各地で運用